



世界に希望を生み出そう

# 自律こそ和

初代会長／故 平澤 善四郎 筆

国際ロータリー第2540地区

秋田中央ロータリーカラブ会報

TEL(018)831-3331 FAX(018)831-3332

URL:<http://akitachuo.sakura.ne.jp>

E-mail:akitachuo@rio.odn.ne.jp

2023～2024  
RIテーマ

## 世界に希望を生み出そう

本年度クラブテーマ

### 和顔愛語(わがんあいご)

創立:1991年7月13日

会長/辻 匠人

幹事/土田 鐘子

会報広報委員長/白沢 啓

■例会日/毎週金曜日12時30分 ■例会場/ホテルメトロポリタン秋田 ■事務局/秋田市中通7丁目2番1号 ホテルメトロポリタン秋田内

第1468回<今年度第24回>例会 2024年3月8日(金)

### 【会長の時間】



会長 辻 匠人

皆さんは、日頃から映画や音楽、演劇等の芸術鑑賞やスポーツ観戦を楽しみ、時に感動を受けた経験が沢山あるかと思います。その中でも、衝撃的に心に深く刻まれた体験が幾つかないでしょうか？

私も雷で頭を打たれる様な経験が幾つかあります。その事は脳裏から離れることなくふとした時、何故か思い出します。

この前、2月下旬だったかと思いますが、NHK-TV昨年10/26再放送の日曜美術館ですが「“描く”という祈り日本画家・西田俊英」の特集番組で衝撃的に心を打たされました。

西田画伯は1953年三重県伊勢市生まれで現在69才。武蔵野美術大学日本画学科の教授です。中学の時校長の紹介で油彩画の師匠に出会い、絵を描く能力を高めるために視野を広げ感性を磨きなさいとプレーヤーとベートーヴェンのレコードを渡され、翌週はモーツアルトのレコードと毎週その印象を絵画で表現した時期を過ごし、高校生の時には個展を開く等、最年少で数々の公募展に入選し頭角を顯わします。

高校卒業後のヨーロッパ旅行で西洋絵画に圧倒されていたところ、一隅の東洋美術の静かな美に救われ己の使命を感じ、帰国後、武蔵野美術大学日本画科に入学。18才の時、家族旅行で訪れたインドでの体験が画風に大きな影響を与えます。

在学中に難関といわれる再興院展に初入選を果たし、1983年の院展で輪廻をテーマにした「華鬘」で優秀賞を受賞します。翌年、東京セントラル美術館日本画大賞展にてインドの牛を描いた「聖牛」で大賞を受賞等、インドの風土から様々なインスピレーションを受け、1995年文化庁在外研修員としてインドに絵画留学。その地で人物画に開眼し、1995年インドの村長と正面から向き合って描いた「プシュカールの老人」で日本美術院賞、及び新設された足立美術館賞をも受賞し、現在足立美術館に展示されています。

西田俊英画伯は、少年期から幻想的ともいえる心象表現と、対象を見つめて描く精緻な写実が融合した独自の表現をする芸術家です。モチーフを求め世界を旅し、常に「ほんとうのもの」を渴望して自らを追い込み西田画伯がたどり着いたのが、屋久島。「何も創らなくていい。原生の自然に抱かれたとき、“ほんとうの絵”が生まれる」と感じ、長大なスケールで現在44m。西田俊英画伯いわく構想膨らみ完成70mが100mになるかもとの題名不死鳥の一部である畢生の作品を描き上げていく過程の取材記録でした。

西田画伯の若き時代にも圧倒されましたが、大学教授の席を一年休み、250日は森に分け入り、大自然を肌で感じながら命がけで作品に没頭する迫力には、テレビ録画をみていても魂が伝わり鳥肌が立ちました。

屋久島の樹海を登り、樹齢2千年以上の巨木、美穂野杉と対峙しながら夢中に筆を運び記者のインタビューに答えて「学生の前では絶対こんな姿は見せないけれど、この自然の前では、自分の総てを見られている気がする」「自分にあるもの総てをさらけ出して、小さな事で悩んだり喜んだり翻弄される自分の情けなさや恥ずかしさの感情受け止めて頂ける」と涙を流しながら語る姿には胸がとても熱くなりました。

突き詰めた最後には命と命との会話が存在するのだと感じます。そのまま日が暮れ懐中電灯一つで闇夜の真っ暗な中で筆を運びます。「闇に包まれた夜の森は何と美しいことか」「昼は明るくよく見え過ぎるが、実は本当の姿がよく見えていなかった。これを描きたかった」「知ったかぶりをしている自分が恥ずかしい」とインタビューに答え、「暗く何も見えなくとも間違いなくそこに実在するし、目がなれてくると様々な命が見えてくる」と語り、絶え間なく描くデッサンの音だけが響きました。

東京に戻り作品制作では落ち葉一枚一枚に至迄繊細に書き込んだ後、天空も大地も黒墨で潰し、記者から折角描いたのにとの発言に対して、ちゃんと見えるよと優しく答えながら、天空の墨をこすり下地から星を浮かばせました。自分と謙虚に向き合い、残された人生をたゆまぬ努力と情熱をもって向かっていく生き様に、見ていても励されます。

記者のインタビューに答える画伯自身の、絵に人生の全てをかけてきたほとばしる言葉や絞り出す一行一句に深く心を打たれました。

西田画伯の凄みある生き方は出来なくとも、どんな仕事も究極は自分との向き合い方だと思いました。技術やプライド・経験だけでは感動は得られないし相手にも伝わらないし、納得のいく仕事に繋がらないと思いました。

何があっても自分自身と正直に向き合い、心から良かったと思える日々を刻む人生を送らなければ申し訳ないと感動した番組でした。

以上、これにて会長の時間を終えます。

# 親睦「春を食する例会」

～ホテルメトロポリタン秋田～



《GUNJI》佐藤さんと白沢会員のアトラクション♪  
ギターとサクソフォンのステキな音と歌のコラボレーション♪





親睦委員会の皆様、楽しいステキな企画をありがとうございました。



## 【幹事報告】

### 通信

\*大曲仙北ロータリークラブ創立30周年記念式典・祝賀会案内

\*開催日時 4月14日（日）  
登録受付 13:30～  
開催会場 大曲プラザたつみ

### お知らせ

\* 4月のお花見例会の開催日について  
4月12日（金）予定を都合により4月19日（金）開催となりましたのでお知らせいたします。

\*開催会場 津ねや 開始時間 18:30～

## 【出席報告】

例会日	会員数	出席数	欠席数	出席率	メークアップ
3月8日	39名	28名	11名	71.79%	8名
3月1日	39名	26名	12名	66.67%	0名
2月9日	39名	26名	12名	66.67%	0名